

<職員の独り言> 東日本大震災、復興に向けてできること

國枝 哲子

8月8日～12日まで、岩手県大槌町へ瑞穂市社会福祉協議会が募集した「東日本大震災ボランティア隊」に参加してきました。私は、3月11日以降、常々自分にできることは無いかと考えていたのです。

その場に立つと、終戦直後にタイムスリップしたような想像を絶する惨状で、言葉がでませんでした。爆風で壊れたような家々。数十メートルにも積み上げられた瓦礫の山々。原形をとどめない放置されたままの車。大津波の威力が、実感として分かりました。

そんな中、私達は、現地の方の要請を受け、2日間「江岸寺」というお寺の土砂の撤去、残りの1日は民家の泥出し作業を行ってきました。現地では、他の団体も数多く活動してみえました。中には外国の方々もみえ驚きました。

私達の団体は、60代の男性が中心でした。中には20代の若者もいました。津波で堆積した土砂は岩のように硬く、中からは錆びついた自転車、トタン、様々な生活用品が出てきました。つるはしで崩し、それを一輪車に載せて運ぶ作業を、参加者同士が自然に声を掛け合い、助け合っていました。35度の炎天下、きつい作業でしたが、特に活躍していたのは若者達でした。彼らは、「テレビで見て、とにかく現地に行かなくては。」「今は使命感で動いている。」と熱く語ってくれました。

被災から5カ月、新聞やテレビで被災地を見ない日はありません。今、私達にできることは、その現状に「心を寄せること」、それが復興に向けた第1歩だと思えてなりません。また、機会があれば、ぜひ参加したいと思います。

さて、この活動では、私には、嬉しい再会がありました。それは若者の中に、私が23年前に担任した子がいたことです。改めて、様々な人との出会いに感謝したいと思います。



<年長組 ディキャンプの思い出>



カレーライスを食べました。つくるののしかった。たまねぎむいてたのしかった。もういっぱいやりたいです。

(あつき)

カレーおいしかったです。たまねぎがめにしみていたかったです。(ゆうご)

おんせんにはいりました。みんなとせんせいであらっごをしました。おふるはあたたかくてきもちよかったです。(なぎさ)

# げんきっこ

NO.5  
2011.9

岐阜聖徳学園大学附属幼稚園

夏休みの収穫を体いっぱい背負って一段と遅くなった子ども達が幼稚園に戻ってきました。いよいよ2学期のスタートです。

今学期は夏から秋そして冬へと季節の移り変わりを感じながら、運動会や芋ほり遠足、どんぐり拾いなど様々な活動が楽しめる時期です。充実した活動とともに子ども同士のかかわりもより深まり、力を合わせて頑張ることや、お互いを思いやる気持ちを大切にしていきたいと思っています。

子ども達が元気で楽しく生活できるよう、私たち職員も頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。



防災の日に地震の避難訓練をしました

<お母さんの子育てメモ> 親子陶芸教室を終えて

林 智子

8月9日伏見直樹先生(道三窯)をお招きして、親子陶芸教室が行われ、マグカップ制作と手形作り(希望者のみ)に挑戦しました。

ちょうど前日が主人の誕生日だったので、娘は「お父さんにプレゼントするから渡すまで内緒にしていね。」と言い、朝からはりきって出かけていきました。

実際に作業が始まると、どの親子も子ども以上に親が真剣に先生の話の聞き、制作していたような気がします。というのも、粘土は思っていたよりも繊細で、エアコンのきいた室内ですぐに乾燥してヒビがはいったり、子どもがちょっと触ったりするだけで爪や指のあとがついてしまうからです。私も一生懸命滑らかにしようとしても、やはり子どもがやるとそんなに上手くはできず、でこぼこしたところもまた思い出なのかなと.....



マグカップの形ができあがって、模様付けになると、娘もいよいよ出番だという感じで、青、黄、桃色の粘土を何度も何度も取りに行っては型抜きをし、のり付けをして貼りつけました。お父さんへのプレゼント

と言っていたにも関わらず、サクラ、花びら、ちょうなどかわいらしいものばかり。やっぱり自分で使うのかなと思いつつも楽しそうな我が子を見ていると、参加して本当に良かったなと思いました。完成までに1ヶ月程度かかるそうですが、できあがりがとても楽しみです。焼き物なので、仕上げの工程で破損する恐れがあるということですが、どうか割れませんように.....

娘にとって幼稚園最後の夏休み、ステキな体験ができたことに感謝しています。ありがとうございました。



子どもの成長は、経験から

親子クッキング教室に参加して

長屋 ひとみ

私が親子クッキング教室に参加したのは、親子の思い出になればという思いからです。普段、子どもと一緒に野菜を切ったりすることは、1、2回はありましたが、料理をひと通り作ることはなかったので、まだ3歳だし、一緒に料理が作れるのかなと少し不安もありました。

当日、エプロンや三角巾を付けたわが子(ことみ)は、喜びはしゃいでいました。子ども用の包丁も用意していただいたため、ことみのテンションはあがっていました。調理が始まると、ことみは「これ切りたい!!!」と言って、子ども用の包丁と一緒に水菜を切りました。

作る料理が手軽で、混ぜる、切る、塗る等、子どもが参加できる所がたくさんあり、こんなに3歳でも料理に参加できるのだと驚きました。また、人参をすっている姿を見て、知らない間に成長しているんだなと思いました。

食べる時「これ美味しいねえ」と言いながら、たくさん食べました。クッキング教室が終わった後、「どうだった?」と聞くと、「こっちゃん、お料理したよ。楽しかった」と大喜びで答えてくれました。その笑顔を見て、私もとても嬉しくなりました。

その日から、私が料理をしていると、興味津々で「何してるの? こっちゃん、お手伝い出来るよ。」と言ってくれるようになりました。少しずつですが、一緒に料理を作る時間が増えたと思います。

親子のクッキング教室の経験が、親子の思い出づくりだけでなく、子どもの成長を感じ、また子どもの成長につながったように思います。これからも、子どもと一緒に料理を通して作ることの楽しさを共に学び、他にも多くの経験をさせていきたいと思っています。

